

とき

vol.20

山本ヨシエさんの 和紙人形が外国で紹介

和紙人形「安来節」を作った山本ヨシエさん（今福・寺上、83）が、今年7月に世界の芸術品や美術品を紹介する本に日本人作家の一人として紹介されました。

この本は、日本国内だけでなくイタリア国立図書館をはじめ世界各地の美術館、図書館、大学施設などに寄贈され多くの人に鑑賞されているものです。

山本さんが所属する今福町長寿連合会の手芸クラブは、平成元年に発足し、現在は講師1人と会員が3人。月2回木曜に活動し、主に和紙人形などを作っています。出来上がった作品は、市民文化祭や今福町民文化祭に出品したり、今福支所内に展示したりしています。

和紙人形は、18号の針金にティッシュを巻きつけ、木工用ボンドで形を整えながら土台の体を作ります。その上に障子紙で顔をつくり、和紙で衣装を着せ、最後に展示台の上で動きをつけます。1人で年間に5〜6体の作品を作っています。

山本さんは、「今回掲載された和紙人形は、手芸クラブに入って間もないころに、踊り好きがこうじて作ったものです。和紙人形は、顔や手足を作るのが難しいです。作った和紙人形には、愛着がありなかなか捨てるできません。色がさめないようにケースに水を入れた容器に入れて保存しています。自分の和紙人形が本で紹介され、大変光栄に思っています。これを励みにこれからもっと皆さんに親しまれるような和紙人形を作りたいですね」と話していました。



写真右から2番目が山本ヨシエさん。今福町長寿連合会の手芸クラブの会員と、それぞれが作った和紙人形を前に。

写真右から末竹千代子ちよこさん（今福・木場、76）、山本ヨシエさん、崎田チヨノふたがわ さちこさん（今福・坂野、80）、講師の二川幸子先生（今福・本町、78）